

立命館大学総合心理学部の紹介

北岡明佳

立命館大学総合心理学部

Introduction of our new college of psychology in the Ritsumeikan University

Akiyoshi KITAOKA

College of Comprehensive Psychology, Ritsumeikan University

立命館大学に新しくできた総合心理学部を紹介する。いつできたかという点、2016年4月である。この原稿が掲載される号は2017年9月の予定なので、まだオープン(?)から一年半しかたっていない。このため、学生は1回生と2回生しかいない。大学院生もいない。と記述すると、寂しそうなキャンパス風景を思い浮かべる読者もいるかもしれないが、実は結構熱気があって(1学年の定員は280名なのだ!),今でも「食堂が混んでいる。何とかして下さい」と学生に苦情を言われているのであるが(そういうことは理事長に言いたまえ),これで完成年度を迎えるとどうなることやら。

総合心理学部には1回生と2回生しかいないが、立命館大学には心理学を専攻する3回生と4回生の学生はいる。大学院生もいる。彼らは、それぞれ京都市北区の衣笠キャンパスの文学部心理学専攻あるいは文学研究科心理学専修に在籍している。一方、総合心理学部は大阪府茨木市の大阪いばらきキャンパスにある(Figure 1)。つまり、両者は地理的に隔絶されているのである。直線距離で30 km程度離れていて、移動には1時間以上かかるので、交流は容易ではない。なぜこんなことになったのかという点、いろいろあって。しかし、立命館大学の心理学の発展にとっては破格の好条件だったので、不満はない。とはいえ、現在の3回生と4回生には気の毒なことをした。

総合心理学部は文学部心理学専攻の後継の教育組織として成立した。その際、京都のキャンパスは手狭だったので、新学部は新しくできた大阪いばらきキャンパスに開設したのである。大阪いばらきキャンパスには政策科

学部と経営学部があるが、それぞれ京都市のキャンパス(衣笠キャンパス)と滋賀県草津市のキャンパス(びわこ・くさつキャンパス)から移転してきた。どちらももともと学部であったから、移転の時にすべての学生を連れてこられたのだが、文学部心理学専攻の学生は文学部の学生であり、文学部の教育を保証する必要があるため、現在の3回生や4回生を大阪いばらきキャンパスに移籍させることができなかった。

さて、学部の名称である。実質的には心理学専攻が学部昇格して規模を拡大しただけなので、「心理学部」でよかったと思う。「総合」心理学部になってしまったのは、いろいろあって。英語名称はさらに意味不明である。“College of Comprehensive Psychology”である。昨年横浜で開催されたICP2016では実行委員だったこともあり多くの研究者と交流したが、「comprehensive psychologyとはどういう意味ですか」と聞かれて答えに窮した。

来年度のことであるが、大阪いばらきキャンパスに心



Figure 1. Ritsumeikan University, Osaka Ibaraki Campus, Bldg. A. Laboratories of psychology are placed on the sixth floor. There is a common use space for citizens in front of the campus.

Corresponding address: College of Comprehensive Psychology, Ritsumeikan University, 2-150 Iwakuracho, Ibaraki, Osaka 567-0871, Japan. E-mail: akitaoka@lt.ritsumeikan.ac.jp

理学の大学院ができる（2018年4月オープン）。いろいろあって、名称は「総合心理学研究科」ではなく、「人間科学研究科」である。この新大学院は、文学研究科心理学専修と応用人間科学研究科（対人援助学領域・臨床心理学領域）を統合して開設されるものである。

総合心理学部は駅前にある。JR東海道本線（このあたりではJR京都線と称する）の茨木駅が最寄り駅だ。茨木駅には、快速と普通（各駅停車）が停車する。新快速（特別快速みたいなもの）は停車しないが、停車する電車の本数が多いし、普通でも速いので、便利である。新大阪駅から快速に乗れば次の駅である。阪急電車や大阪モノレールの駅からも徒歩圏である。つまり、新幹線からも空港からもアクセスはよい。

2016年度に、立命館大学はイグノーベル賞受賞者を輩出したので、総合心理学部が企画して受賞者を招待し、大阪いばらきキャンパスで講演会を開催した。その先生によると、大阪いばらきキャンパスは「駅前ではない」とのことである。連絡係の私が「JR茨木駅前にあります」と言ったものだから、私のことばを信用して地図をチェックせずに駅に降り立ち、大学がどこにあるのかわからず、遅刻しそうになったとのことである。そういえば、日吉駅前や駒場東大前駅や今出川駅などにある大学ほどモロに駅前というわけではない。マンションが邪魔で駅から見えないという事情もある（一部見えるが）。おまけに、駅には「立命館大学はこちら」の看板がない。カネがかかるのだそうだ。そこに出し惜しみをするなよ。とはいえ、道さえ間違えなければ、改札口から快適な専用歩道を歩いて5分で到着できる。

大阪いばらきキャンパスは、JRの線路に隣接している（Figure 2）。私は電車好きなので、天国のようなところである。電車がたくさん走っている。ディーゼルカーも走っている。貨物列車も走っている。電気計測車も見かける。TWILIGHT EXPRESS瑞風も目撃した。いや、話が脱線した。

総合心理学部には総合心理学科のみがあり、専攻にも分かれていない。しかし、3つのコースがある。「認知・行動」、「発達・支援」、「社会・共生」である。「臨床」のコースはなく、3つのコースにそれぞれ含まれてい



Figure 2. The West Japan Railway Kyoto Line and the buildings of the Osaka Ibaraki Campus.

る。2回生になる時に、コースを選択する。コースの違いは、卒業に必要な専門科目の数え方の違いである。

専任の教員数は現時点では30名である。それに加えて、特別招聘教授、特任教授、特任助教、助手、さらに研究プロジェクトの研究員を合わせれば、現時点でも40名を超えるスタッフがいる。来年度（2018年度）には大学院もできるので、さらに大所帯になる。

それらの人数の研究を支える実験室群は充実している。大阪いばらきキャンパスの中で最大の建物であるA棟の6階の大半を、総合心理学部の実験室としている。6階の床面積は4761.89m²である。東京ドーム0.1個分である。本学部の助手の試算によると、コンビニのチロルチョコなら529万個が敷き詰められる面積である。大型備品としては、NIRSを一台所有している。今のところ、ゼミも卒業研究もないし、大学院生もいないので、比較的閑散としており、嵐の前の静けさといったところである。

そういえば、日本基礎心理学会第36回大会は、2017年12月1日（金）～3日（日）に、立命館大学大阪いばらきキャンパスにおいて開催される（<http://www.psy.ritsumei.ac.jp/jps2017/>）。皆様のお越しをお待ちしております。

（おしまい）